

2012年3月期 第2四半期決算 IR 説明会(2011/11/1 開催)
質疑応答内容

Q: エネルギー・金属部門の見通しを下方修正しているが、上期と下期で見た場合、下期は上期より50億円改善するとの見方となっている。どのような改善を見ているのか。

A: 石炭事業で新しく取得した権益の寄与が効いてくる。(豪州の大雨の影響もあり)第1四半期での寄与は大きくなかったが、第2四半期から生産量が上がり量的確保ができるなかで、石炭事業がキャッチアップする形で見通しを立てている。

Q: 格付機関のムーディーズが格付手法の変更提案を総合商社に対しても行っているが、格下げリスク等をどのように見ているのか。

A: ムーディーズからの提案は、日本の総合商社についてもファイナンス・カンパニーに分類し、ファイナンス・カンパニーと同じ手法を用いて格付評価を行っていくというものだが、総合商社の収益源泉は多様化しており、収益の大半が一つの事業活動、商品から生み出されているモノラインのファイナンス・カンパニーとは一線を画するものであり、リース・ローンに関連した金融サービスを行うファイナンス・カンパニーと同じ業界に位置付けるには無理があると考えている。

Q: 生活産業の業績が下期、悪化するとみているが、上期と下期に分けて、各事業の状況を教えてください。

A: 上期は震災の影響により、木材・合板の需要が活発となり、業績が想定以上に進捗した。ただ、復興関連の事業がなかなか進まないなか、下期は逆に木材・合板の在庫調整が必要となってきたおり、その反動減を見込んでいる。加えて、下期の業績進捗を見込んでいた肥料事業が、タイの洪水の影響により、農繁期に販売活動が沈静化してしまった。当社は、この洪水の影響を厳しくみる必要があると判断している。従い、上期は大きく業績が進捗したが、下期は事業環境が変わったことから、下期の業績を厳しく見込む必要があると考え、生活産業の通期見通しを据え置いている。

Q: タイの洪水の影響について教えてください。

A: タイの洪水で、肥料事業、自動車事業、樹脂関連事業が主に影響を受ける。これらを合わせて15~20億円程度の損失が出るのではないかと現時点で見ている。

Q: 洪水の影響を受けたタイ肥料事業の状況について、もう少し詳しく教えてください。

A: 洪水の影響により、販売量減少等を見込み、業績見通しは下回るとみている。一方で、当社保有の肥料工場のダメージはそれ程大きくないと聞いている。

Q: 自動車事業が回復してきているが、足元の状況を教えてください。特に足元安定しているロシアやベネズエラについてどのように見たらよいか。

A: 自動車事業は、販売台数が前年比で50%アップとなっており、足元順調に推移している。この状況は今後も何か大きな問題が生じない限り続くと見ている。地域別では、ロシアは、欧州の財政問題の影響を一部受けるのではないかと懸念を持っているが、現状、ロシア経済そのものは順調で、販売もスローダウンすることなく推移している。ベネズエラも足元の操業は安定している。

Q: ネット DER 2 倍程度を目標とされている一方で、2011 年 9 月末時点でのネット DER は 2.3 倍と若干上昇している。目標とされている 2 倍程度を今後どのように実現していくのか。

A: ネット DER の改善については、為替の変動により自己資本が減少しないように、ヘッジ策を一部とり入れている。加えて、全ての在庫をもう一段見直し、圧縮することで運転資金を減少させる。このように、為替リスクと在庫の見直しによりネットキャッシュの改善を図っていく。無理をしてアセットを売却してネット DER の改善を図るのではなく、通常のコペレーションを進めていく中で、収益力を維持しながらネット DER の改善を図っていく。

以上